



ニュースレター

No. 7

発行日 2013年1月

1 ごあいさつ

本格的な冬をむかえ、きびしい寒さの地域もおおくなっています。みなさまいかがおすごしでしょうか。

このフォローアップ調査の研究プロジェクトも、すでに4回の調査を終え、予定どおりすすんでおります。調査にご協力くださっている方々をはじめ、本研究をささえてくださるみなさまに、ふかく感謝してお

ります。

今年は、このプロジェクトの最終（第5回）の調査を、2月に予定しております。ぜひご回答くださいますよう、おねがい申しあげます。本号は、その第5回調査についてのご説明のほか、これまでの4回の調査からわかる仕事の変化についての項目の集計をご紹介します。

2 ご回答への御礼とお願い

このプロジェクトでは、これまでに4回の調査をおこなってきました。1500人をこえるかたがたから、毎年の調査にご回答をいただいています。ご協力くださっているみなさまに、かさねて御礼を申しあげます。

この2月に、第5回目の調査をおこないます。第2回から第4回の調査は郵便でおとだけして郵便でおくりかえしていただく方式でしたが、今回は、第1回の調査とおなじく、調査員がみなさまのところへうかがって、調査票を直接おわたしする方式です。調査票にはみなさまご自身でご記入くださ

い。調査員は後日もう一度うかがいますので、そのときに、記入済み調査票を調査員におわたしてください。

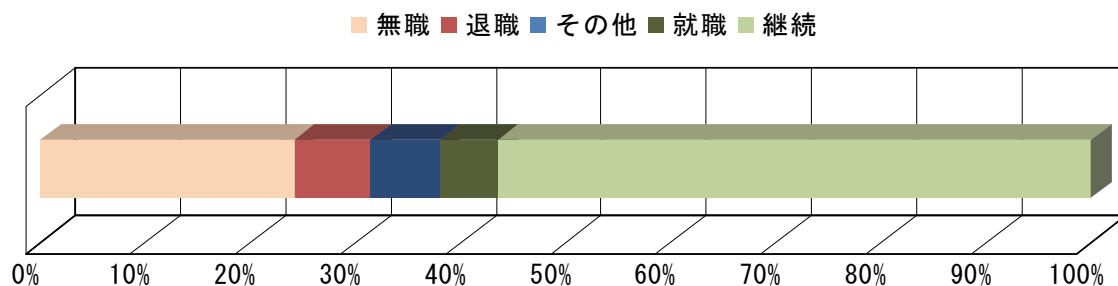
今回の第5回調査が最後の調査となります。みなさまがたの回答と、お名前やご住所などの情報は、他所にもれることのないように、調査会社が厳重に管理いたしますので、ご安心ください。家族に関するさまざまな出来事やそれによる変化についてくわしいデータをえるためには、おなじかたが継続してこたえてくださることがいちばん大切です。ぜひ最後までご協力くださいますよう、おねがいたします。

3 調査結果のご紹介

仕事の変化について —過去4回の調査結果から

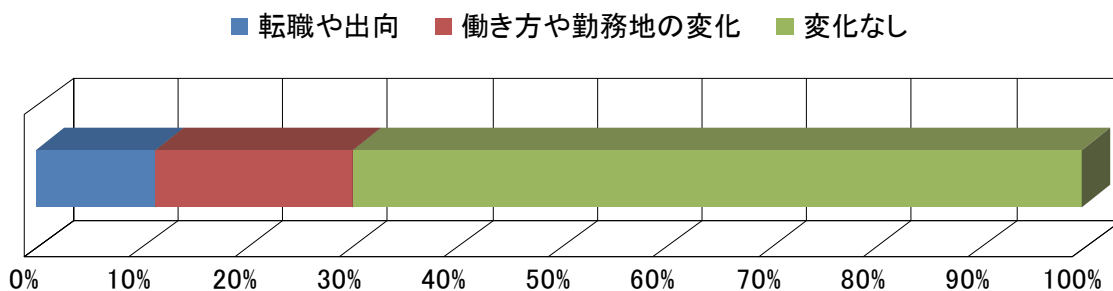
第1回（2009年）の調査から第4回（2012年）の調査まで、職業に関する質問に毎回お答えいただいています。今号では、このデータを利用して、どのくらいの方が4年の間に仕事の変化を経験しているかの集計結果をご報告します。

まず、仕事についているかどうかという点についてみてみましょう。この4年間の間、ずっと仕事についていた人は約6割、ずっと無職だった人は4分の1くらいです。のこる2割くらいの方は、この4年の間に変化を経験しています。無職の状態から、就職して仕事についた人もいます（5.5%）。逆に、仕事をしていましたが、退職したという人もいます（7.3%）。その他、いったん退職したあとまた就職した、というような、複数回の変化を経験した人もいます。

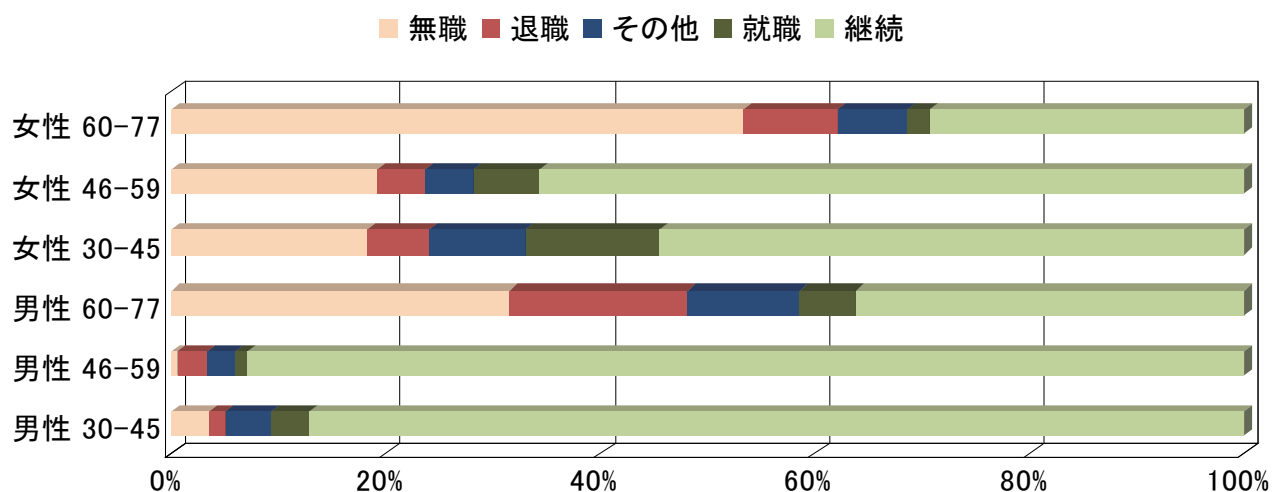


このグラフからわかるように、いちばんおおいのは、ずっと仕事をつづけている人です。では、この人たちの間に、ずっとおなじ種類の仕事をつづけている人はどれくらいいるのでしょうか。

つぎのグラフは、ずっと仕事をつづけている人だけにかぎり、勤め先の変化（転職や出向）があったかどうか、働き方（常時雇用かパートかなど）や勤務地の変化があったかどうかを集計したものです。そのような変化はなかったという人が、およそ7割です。転職や出向などを経験した人は、およそ1割です。おなじ勤め先のなかで働き方や勤務地が変わったという人は、およそ2割です。



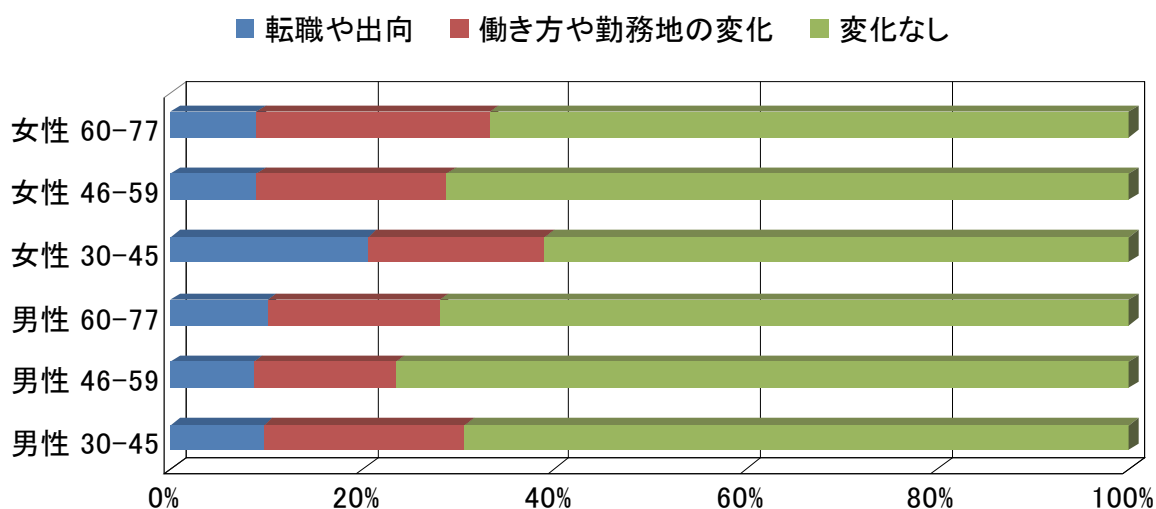
退職、就職などの経験を性別・年齢別にわけてみました。（年齢は、2012年時点でのものです。）



男女とも、60歳以上で、ずっと無職である人がおおくなっています。また、特に男性では、退職を経験した人もおおく、高齢の時期になると、仕事をやめて無職になること（定年退職など）がよくみられることがわかります。

60歳未満では、男性の場合、ずっと継続して仕事についている人が圧倒的におおいことがわかります。これに対して女性の場合、仕事を継続している人が多数ではあるものの、男性にくらべるとすくなく、その分、無職である人がおおくなっています。また、退職や就職などの変化も、男性よりもひんぱんにおきています。

つぎのグラフは、ずっと継続して仕事についている人だけにかぎって、勤め先や働き方・勤務地の変化があったかどうかを、性別・年齢別にわけて集計したものです。女性の30-45歳で、転職や出向の比率がやや高くなっています。それ以外（女性の40代後半以降と男性）では、およそ7割かそれ以上の人に変化なしと答えています。



4 成果の公表

本プロジェクトは、日本家族社会学会が1998年からおこなっている「全国家族調査」(NFRJ)の一部です。NFRJは日本でも有数の大規模な総合家族調査です。この調査の結果は、研究に利用されるだけでなく、政策的・社会的関心にもこたえるものになっています。

このフォローアップ調査の結果についても、学術雑誌や学会大会などでの研究成果の報告を積極的におこなってきました。昨年9月には、日本家族社会学会大会(於:お茶の水女子大学)で、本プロジェクトのテーマセッションを開催しました。フォローアップ調査のデータの特性のほか、仕事とストレスの関係、定年退職と家事分担、親から子供への教育的なかわりかたなどについて報告がおこなわれました(写真はこのテーマセッションのようす)。



そのほかの活動については、全国家族調査(NFRJ)公式ウェブサイト(<http://nfrj.org/>)で公開しています。「フォローアップ調査対象者の方々へ」ならびに「NFRJ-08Panel」のコーナーをごらんください。今後も研究成果の公表と社会にむけての提言を積極的におこなっていきます。

★ 転居なさった時は、お手数ですが、下記までお知らせください。

一般社団法人 中央調査社

〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-12

0120-48-5351 (フリーダイヤル)

<http://www.crs.or.jp>



本調査でお送りする郵便物にはこのロゴ
がついています

〈実行委員会メンバー〉

西野理子 (東洋大学) 〈委員長〉

永井暁子 (日本女子大学) 〈事務局長〉

田中慶子 (家計経済研究所)

田中重人 (東北大学)

筒井淳也 (立命館大学)

水落正明 (三重大学)

三輪 哲 (東北大学)

保田時男 (関西大学)